

磊ノ島からお知らせ



皆さんこんにちは。一般社団法人磊ノ島です。

一昨年11月に発足して以来、早いもので2年目となりました。

昨年4月には島食堂ひなたの営業を開始し、以来島の内外のたくさんの方々にご利用をいただいています。これも、島の皆さんの日頃からの暖かい応援とご支援のおかげと感謝しております。

さて今回、磊ノ島では、この4月から馬島地区にある「大津島ふれあいセンター」を、周南市から委託されて管理運営する事になりました。

今後は、食堂との連携で新しいイベント等、地域の振興の為に活動を以前に増して行っていく所存です。

どうぞこれからもよろしくお願い申し上げます。



文＝一般社団法人磊ノ島
代表理事 渡邊あゆ子

No.34 地域創発会議の報告

文＝代表世話人 野間久生



去る2月15日、市役所本庁交流室にて、地域創発会議「関係人口」の創出拡大に向けての「事例紹介」として若潮の会の活動を発表する機会を得ました。出席者は、中山間地域の「コミュニティ」関係者、市関係者の方々、総勢36名で開催されました。発表は最初に大津島の現状を紹介し、若潮の会の設立経緯と目的、運営資金、会員の構成、活動内容、今後の課題と目標を順に説明を行いました。

その後4班に別れてのグループディスカッションで、各地域共通の困り事や新たな課題の話し合いが行われました。ある地域の方で中山間地域はとにかくスタッフ不足、街地中で興味のある方に声掛けをしたり、中山間地区同志での助け合いをして、交流する機会を積極的に作り、関係人口を増やそうとの意見もありました。年明け早々、新型コロナウイルスにより多くの行事が中止、延期になっていますが、今後もメンバー一同頑張りたいと思います。

若潮の会関係人口の推移

2015年	129名
2016年	147名
2017年	194名
2018年	209名
2019年	163名 (2/11迄)



※関係人口とは『地域に関わってくれる人口』のこと。自分でお気に入りの地域に週末ごとに通ってもらい、頻繁に通わなくても何らかの形でその地域を応援してくれる人たちのこと。

※ 松田翔剛 【羊の羽は丘にあり】の5月号は、記載事項が多いため、休載いたします。

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
7月1日 第274号

移動図書館 やまびこ号ジュニア
5月29日(金)、6月13日(土)
馬島11:30~ 刈尾12:20~

善意銀行へのご寄付ありがとうございます
▼預託者 石田 一志 様
母 石田 ヒナエ 様の香典返しとして
金5万円(市社協1万円、大津島社協4万円)

【5月~7月の主な島の行事予定】
7月上旬ごろ 十人墓供養祭(瀬戸浜地区)
※新型コロナウイルス感染拡大の防止に伴い、総会等中止の予定です。

【編集後記】
大津島支所へ赴任して、2年目に突入しました。早速、恒例のさくら祭と思いきや、コロナという厄介なウイルスが世の中を苦しめていて、残念ながら、行事がどんどん中止になってきています。早く終息を願うばかりです。
文責：原田 和保

知っちょるかね

Aちゃんの九死に一生物語

文＝松本千恵子



(Aちゃん、二十歳の頃を思い出しながら語る) うちの頃は石船をせちよった。石船ちゅうのは、分かるかね。石を運ぶ船で、両舷には棚もなんにもない船で、積荷の石の上に、大石ちゅう船のバランスを崩すための石が積んである。荷を崩す時は、その大石を片側へウエンチンで吊って船を傾けて一気に石を転がし落とすように造られた船の事だね。ある日、そんな船で、新婚の私ら夫婦とじいちゃんの三人が関門海峡にさしかかった時のこと。まだ潮の流れが速くて、どの船も潮待ちをせちよったが、じいちゃんが「これ位なら、潮を見りゃあ通られようだよ」ちゅうて、船を動かしたんよ。私は船の後方で、里芋の皮でもむいちよったろうかね。それで船が流れに入った途端、潮に引き込まれて、船が大きく傾いたのいね。それで、大石は、はずれるし、石は皆転げ落ちて、私は海に放り出された。必死で手足を動かした。泳ぎはできたから、溺れはせんかった。船の方は石が無くなって、軽くなったもんじゃから、潮に乗って、スーッと遠くまで流されてしもうて、私は関門海峡の速い潮のただ中に残されてしまったんよ。必死で手足を動かした。目の前に、あの時一緒に落ちた、伝馬が浮いちゃったが、その伝馬まで、近付こうにも潮に押されて、ちよっとも近付けん。死ぬるかもしれん。そう思いながら、必死にあがいた。石船の方から、Nち

やんが「伝馬に乗れー。伝馬まで行けー」ちゅうて、大声で叫ぶんが聞こえた。それに励まされながら、潮に流されては、泳ぎをくり返ししながら、何度も死ぬるかもしれんと、あがく内にどうにか伝馬の縁を掴むことができた。十月頃の事じゃったろうか、着物が重とって、伝馬の上には上れんかった。ただ必死に伝馬の縁を持つちよった。どうにもならんま、時間が過ぎたが、その時、運のええことに、宇部沖の事故から帰りの保安庁の船が通り掛かって助けてくれたんよ。「奥さん、よう頑張ったね」ちゅうて、保安庁の船に乗せてくれて、風呂にも入れてくれた。私が風呂に入っちょる間に、私の服は、機関場できれいに乾かしてくれちよった。機関場は、エンジンの熱があるけん、早う乾くんじゃね。上陸させて、迎えに来てくれたNちゃんの顔を見たときは本当にうれしかった。じゃが、履物は流されて、無かったけん。裸足で一歩に歩いたんは恥かしかった。

あれから何十年じゃろうか、生きちよったおかげで今でもNちゃんと一緒に生きちよる。つくづく幸せな事じゃと思っいね。

(Aちゃん語り終える)

徳山湾見聞録

21 五月晴れとジュニアブライド

文＝回天記念館 三崎英和



これから迎える5月から6月にかけての、回天記念館前庭からの徳山湾の眺望は最高です。小高い丘の上から、目の前に広がる湾内をこれだけ美しく見渡せる場所は、市内には他にないでしょう。特に、五月晴れの日に広がる青い空と真っ白い雲、そして青い海は、パソコンばかり眺めて目が疲れた時の最高の息抜きタイムにさせてくれます。

ただ、この五月晴れとは、もともとは旧暦5月(新暦6月)の晴れ間のことを指しており、梅雨晴れともいわれたのですが、いつの間にか新暦で使われるようになったみたいですよ。

それと6月になるとジュニアブライドという言葉もよく耳にします。6月の花嫁や挙式を挙げた人は幸せになるという意味ですが、その理由は諸説あるようです。



イラスト 三崎英和

この言葉は欧米から入ってきましたが、特にヨーロッパでは6月は気候が良いことからこうした言葉が生まれたと言われています。

しかし、日本の6月は梅雨に移り行く時期となり、結婚式を行う人が少ないため、関連業者が売り上げ向上を狙って使い始めたというのが日本での使用の始まりです。そんなことを知ってしまつと、6月に結婚式を挙げるとなんだか踊らされている気もしますが、式経費が安くあがるのであれば、それに越したこともないですよ。